

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月20日

【評価実施概要】

事業所番号	3470102876
法人名	医療法人社団 孝風会
事業所名	グループホーム吉山
所在地 (電話番号)	広島県広島市安佐北区可部南4丁目5番10号 (電話) 082-815-0666

評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成20年3月4日	評価確定日	平成20年4月24日

【情報提供票より】(平成20年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年6月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤6 人, 非常勤3 人, 常勤換算4.7 人	

(2) 建物概要

建物形態	併設 / 単独	新築 / 改築
建物構造	鉄筋コンクリート耐火構造 造り	
	2 階建ての	2 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	(50,000~60,000)円、二人部屋90,000円	その他の経費(月額)	10,000 円
敷 金	(有) 100,000~180,000 円		無
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	400 円	昼食 550 円
	夕食	550 円	おやつ 円
	または1日当たり 1,500 円		

(4) 利用者の概要

利用者人数	6 名	男性 3 名	女性 3 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名
要介護3	0 名	要介護4	0 名
要介護5	0 名	要支援2	1 名
年齢	平均 81 歳	最低 74 歳	最高 87 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	吉山クリニック、穴村歯科
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームに来訪した日は、周辺の花々が雪が残っている季節だったが、ホームに一步足を踏み入れると、ご利用者・職員の方々の温かい笑顔に迎えられた。季節の花々が活けられ、隅々まで掃除が行き届いたリビングのソファに、肩を担ぎ寄せて座っておられるご利用者と職員。笑い声が絶えず、まるで大きな家族のような印象を受ける。白衣を着られた笑顔の院長と、同じくいつも笑顔をやさしい管理者(院長の奥様)、そして事務長が、職員・ご利用者を大きく包み込み支えている。昼食後、ご利用者全員が自主的に食器の下膳や洗い物を始めていく。職員・ご利用者同士「あうん」の呼吸で、日々の生活の中の役割分担をしていく。ホームの主役はご利用者であり、ご利用者の潜在能力を確実に引き出していく生活がそこにはあった。長年、脳神経外科の医療機関として、地域医療に貢献してきたクリニックの理事長(院長)が開設しているグループホームであることは、ご家族とご利用者、そして地域の方々の安心となってきている。院長は、認知症専門医でもあり、ホームに立ち寄ることも多く、職員は、院長から直接、病状や治療方針・ケアに関する必要なアドバイスをいただいている。「元気になって家に帰りましょう」と、院長がご利用者・ご家族に個々に応じた説明をしており、ご利用者も、「家に帰る」ことを目標に、日常生活の中で生活リハビリや自主運動などを頑張られている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>昨年度の外部評価の結果を、事務長・管理者・全職員で改善計画書を作成し、改善に取り組んできた。生活空間づくりでは、西側の居室や廊下、北側のトイレなどに温湿度計を設置し、エアコンなども細かく調整をしている。運営体制の「感染予防マニュアル」に、ホーム内の各箇所の掃除・消毒の手順を明記し、衛生管理に努めている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は、職員にケア会議の場で今年度の自己評価の項目を含めて口頭で説明した。日頃の状況を振り返りながら、各職員に「自己評価票」を記入してもらい、管理者が一つにまとめていった。日々、業務に追われている状況であったが、自己評価を通して日々の振り返りになり、「もっと勉強をしなければならぬ」と言う意識につながった。あらためて、「日々の業務に流されてはいけない」と言う認識にもつながった。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>ご利用者・ご家族・自治会会長・地域住民代表・地域包括支援センターの方々に参加していただき、実際に日々の生活の中で、取り組んでいる活動状況などを中心に現状の説明をしている。その後、参加者の方からの質問やご意見をいただきながら、自由に意見交換ができるようにしている。「地域の中に、家の中に引きこもっている認知症の方がかなりおられ、グループホームのことを知らないのでも周知してほしい」と言う、参加者からのご意見をいただいた。その後、院長や管理者が地区の集会所で認知症についての講演をするなど、ご意見を運営に活かしていく取り組みを行っている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>職員は、ご家族の方がそれぞれ心配されていること・知りたいこと・要望を把握しており、ご家族の来訪時に、日頃の暮らしぶりや健康状態含めて個別に報告している。病状などは、院長が直接説明している。暮らしぶりを書いたお便り(手書き)を毎月郵送し、必要時は、電話での報告もしている。なかなかお会いできないご家族にも、手書きのお便りを送り、ご本人の様子が伝わるようにしている。ご家族がホームに来訪時、なるべく理事長・事務長・管理者・職員ともに、ご家族に声かけし、繰り返し要望を言っていたけりよう働きかけている。年に2回、無記名アンケートも行い、ご家族より、本音で、ご意見・疑問などをいただくようにしている。</p>
重点項目 ④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームの周囲は工場があったり、大道もあって、近隣民家の方との交流が気軽にできる環境ではないため、ホームの方から積極的に地域に出向いていくようにしてきた。地域の餅つきやお祭り、地域の清掃活動にも、ご利用者と職員と一緒に参加しており、地域の方からも「おいでやー」と、声をかけていただくようになった。ご利用者も一緒にお餅をついており、お力を発揮していただいている。老人会や自治会からの依頼で、理事長(院長)が、「脳」に関する講義に何うこともある。19年度からは、中学生の体験学習も受け入れており、ご利用者も楽しいひとときを過ごすことができています。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの理念の中に、「御本人が 今まで 営々と築いて来られた 尊厳(プライド)と生活の質を保ちます。……職員のみならず、ボランティア、地域の方々の協力を得て 地域社会全体で暖かく見守ります」と言う表現を、ホーム開設時より盛り込み、理念を作成している。25年前に医療機関を開設しており、地域に根ざした地域医療に取り組んできた。その考えは、ホームにも引き継いでおり、吉山クリニックの“設立由来”と合わせて、ホームの“理念”を明示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	週に1回の会議の時に、理事長が“理念のファイル”を手を持ち、職員はそのファイルを見ながら、理念・介護目標を唱和している。理念の2番目に掲げている「生活自立能力(残存能力)を引き出し、認知症を和らげ進行を遅らせませす」と言う部分は、理事長(院長)がレントゲンのフィルムなどを職員に見せながら、ご利用者の病状説明やケアの留意点を説明している。職員も、不明な点は院長に質問を続け、「病状を正確に理解することで残存能力を活用できる」という視点で、日々ケアを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの周囲は工場や大通りもあつたりで、近隣民家の方との交流が気軽にできる環境ではない。ホームの方から積極的に地域に出向いていくようにし、地域の餅つきやお祭り、地域の清掃活動にも、ご利用者と職員が一緒に参加している。地域の方からも「おいでやー」と、声をかけていただくようになり、ご利用者も一緒にお餅をついており、お力を発揮していただいている。老人会などからの依頼で、理事長(院長)が、“脳”に関する講義に何うこともある。中学生の体験学習も受け入れている(19年より)。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、職員に、ケア会議の場で今年度の自己評価の項目を含めて口頭で説明した。日頃の状況を振り返りながら、各職員に「自己評価票」を記入してもらい管理者が一つにまとめた。日々、業務に追われている状況であったが、自己評価を通して、日々の振り返りになり、「もっと勉強をしなければいけない」と言う意見も出てきた。あらためて、「日々の業務に流されてはいけない」と言う認識にもつながった。また、昨年度の外部評価の結果も全職員で改善計画書を作成し改善に取り組んできた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者・ご家族・自治会会長・地域住民代表・地域包括支援センターの方々に参加していただき、実際に日々の生活の中で、取り組んでいる活動状況などを中心に、現状の説明をしている。その後、参加者の方からの質問やご意見をいただきながら、自由に意見交換ができるようにしている。以前から、地域の方とは話し合いをしていたが、運営推進会議を通して、より具体的にアドバイスをいただけるようになっていく。	○	今後、議事録の中に、参加者からのご意見や質問に対して、ホームの方が回答した内容を記録に残していくことで、参加されなかった方に対しても、会議の内容が正確に伝えていけると思われる。また、自己評価・外部評価の結果を、会議の場で報告していくことで、日々、取り組んでいること・今後、取り組んでいきたいことが参加者にも理解でき、更なるアドバイスや意見をいただけていくことを期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区の担当者も、時々ホームに来て下さる。2週間に1回、理事長が介護認定審査会委員という立場で区に行っており、区の担当の方に気軽に相談できる関係になっている。消費者被害の事例についての相談をご家族から受け、区のほうに相談をしたが、必要時は、適切な相談場所を教えていただくなど、親身に相談に乗っていただいている。書類に関することも相談したが、担当の方から指導を受けながら、徐々に書類も整備できてきている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	職員は、ご家族の方がそれぞれ心配されていること・知りたいことを把握しており、ご家族の来訪時に、日頃の暮らしぶりなど個別に報告している。また、暮らしぶりを書いたお便り(手書き)を、利用料などの請求書と一緒に毎月郵送し、必要時は、電話での報告もしているが、職員は、直接ご家族とお会いして本音を聞いていきたいと考えている。なかなかお会いできないご家族にも、手書きのお便りを送り、ご本人のご様子が伝わるように努力している。病状は、院長が、直接ご家族に説明している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族がホームを来訪時、なるべく理事長・管理者・職員ともに、ご家族に声かけし、繰り返し要望を言っていただけるよう働きかけている。年に2回、無記名アンケートも行い、ご家族より、本音で、ご意見・疑問などをいただくようにしている。いただいたご意見は、理事長・事務長・全職員含めて協議し、対応するシステムを作っている。運営推進会議の場でも報告し、対応策の意見を頂いている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者である理事長は、職員が交代することで、ご利用者へのダメージがあることを理解しており、理事長・事務長・管理者の3人で、職員の個人的な悩みも聞いている。職員の仲が良く、職員の上下関係にこだわらず、自由に意見を出しやすいようにしており、職員が、いろいろなアイデアを言っていたことを、日々のケアにもなるべく反映させるようにしている。職員の休みの希望に極力、応じたり、基準以上の配置にするなど、働きやすい環境を整えている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	理事長は、職員の育成が不可欠であると考えており、2週間に1回、ホームの1階で開催している理事長が講師をしている「健康セミナー」や会議の場で、認知症について常に職員に話している。また、市主催の外部研修にも職員は、年に1～2回参加し、参加できなかった方には、ホーム内研修や会議のときなどに研修を受けた職員が口頭で伝達研修を行っている。現場では、理事長・事務長・管理者・リーダーが職員の指導にあたっている。	○	今後、更に市主催の研修に職員を参加させていく取り組みを続けていくとともに、今後は、さらに職員一人一人の育成計画を作成し、段階に応じた育成が継続して行われていくことを期待していきたい。また、外部研修に参加された方は、研修レポートを作成しているが、そのレポートと合わせて、研修時に配布された資料も、伝達研修時に配布(または提示)することで、より伝達研修の効果が高まることも期待できる。伝達研修のあり方も、今後、検討されてみてはいかがだろうか。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	理事長は、他ホーム等との交流を通して、ネットワークづくりや勉強会をしていくことが必要であると考えている。昨年11月から、同地区内のグループホーム意見交換会も始まり、少しずつネットワーク作りができてきている。事例検討・相互訪問・電話での日常的な情報交換・相談も行い、サービスの質の向上に向けた取り組みを続けてきた。ホームの1階で行われている「健康セミナー」に、他ホームから「参加したい」と言う希望もあり、受け入れをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご入居前に、職員が、ご利用者が入院中の隣接のクリニックやご自宅などを事前に訪問し、顔なじみの関係になっている。職員と顔なじみになりながら、ご本人にもホームの見学に来ていただき、ホームに慣れていただく時間を作っている。お一人お一人の性格や家族背景を把握しながら、ご家族への説明の仕方にも配慮している。入居時、理事長(院長)から、ご家族・ご本人に「元気になって家に帰りましょう」と共通の目標をお話しているため、入居に関しては前向きな姿勢が見られている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、ご利用者から、菜園での農作業・茶道の御点前・お茶の時間の人生話等、教えていただいている。日頃の生活の中でも、「私たちはわからないので教えてください」と言って、農業のことなど積極的に教えていただく場面を作っている。また、日常生活の中で、自主運動など頑張られ、できないことが徐々にできるようになられるので、ご利用と一緒に喜び合う機会も多い。ご利用者のいろいろな言葉の中に、ご利用者が歩んでこられた人生を垣間見て、自分の人生の目標にしたいと思う職員も多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	夜勤の時や日頃の生活の中で、ご利用者の方に昔話を聞いたりしながら、思いや希望を語っていただいている。意思疎通が困難な方は、ご利用者の行動や表情を見つめ、ご利用者と目線を合わせることで、ご利用者の思いに近づく努力をしている。ご利用者から「私も皆のように歩きたい、外に出たい」という意向が聞かれ、足の筋力をつけるための運動をした結果、散歩時に歩いていただくことができた。ご本人の顔にも笑顔が見られ「気持ちいいわ。外はいいわね」という言葉を聞くことができた。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	あらかじめご本人、ご家族の意見、希望を聞きながら、院長に相談した結果も踏まえ、職員の意見も踏まえて、介護支援専門員が作成している。介護支援専門員は、隣接のクリニックで看護師として勤務している時間が長く、ご利用者が入院中の状況から把握できている。入居後は、ホームでの生活を確認しながら、職員からの情報も合わせて介護計画を作成している。「地域で暮らす」という視点を持ち、介護計画に反映できている方もおられる。	○	現在、クリニックの介護支援専門員が兼務をしている状況だが、今後は、24時間介護をしているホームの職員も介護計画の作成に参加し、ご本人ができること・介護が必要なこと・今後できそうな事などは、ホームの職員が意見を話し合い、より具体的な個別援助計画(手順書など)まで盛り込んだ介護計画になっていくことで、ケアの標準化につがることを期待できる。また「地域で暮らす」という視点を意識し、日頃行っている外出や、地域の方との交流なども含めて介護計画に追加していかれることを期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の会議の中で、全員の体調や状況の意見交換を行っている。ご利用者の体調によって、短期目標も個別に設定し、適宜モニタリングを実施するとともに、日頃から、ご本人、ご家族にも意見をうかがいながら介護計画の見直しをしており、状態が変化した場合は、随時、見直しを行い、介護計画の変更をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接のクリニックがあるために24時間の医療連携体制が整っている。体調変化に応じて、迅速に治療が受けられるため、異常の早期発見・早期治療につながっている。クリニックへ入院中は、職員がお見舞いに行き、ホームでの生活が可能かどうか、院長との連携を日々行っている。ご本人・ご家族からの要望に応じて、ドライブにお連れしたり、院長も一緒に回転寿司を食べに行ったりしている。地域の方からの介護相談にも応じたり、地域の方も参加しての「健康セミナー」を開催している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者全員、理事長(院長)が元々の主治医であり、院長が開設しているグループホームと言うことで、ご本人・ご家族も安心している。週に1回、隣接のクリニックに受診しているが、日頃も、理事長(院長)がホームに来られることも多く、職員は院長から、適宜必要な助言・アドバイスをいただけている。受診時の結果は、院長がご家族にわかりやすく説明している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	治療の必要がある場合は、医療の現場(クリニックなど)で治療を行うことを原則にしており、ホームでは、看取りは行わないということをホームの方針にしている。日々の暮らしの中で、できることは、ご自身でしていただき、重度化しないようリハビリも毎日続けている。入居時に、ホームの方針は、理事長よりご家族などに説明しご理解いただいている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は全員、お一人お一人の誇りやプライバシーを損ねる言動をしないよう注意をしている。ご利用者は、目上の方なので、体調にも配慮し、その時に応じて柔らかい言葉かけや方言を使うように心がけている。職員が、ご利用者の居室を入室する時は、必ず声かけをおこない、ご利用者を否定するような言い方はしないようにしている。職員は、個人情報の取り扱い方も理解しており、個人情報に関する話しをするときは、他に聞こえないよう配慮するとともに、情報の漏洩防止にも努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が声かけをしなくても、ご利用者の方から、食事の準備・後片付け・自主訓練などをしてくださる。個別の楽しみごとや日課も尊重し、1日1日、それぞれの思い思いのペースで過ごすことができおり、職員が、ご利用者の傍らに座り、会話を楽しんだり、趣味や学習を一緒にさせていただくことも多い。座りっぱなしや寝たきりにならないよう声かけして、楽しいレクリエーションやリハビリをおこなっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者に、食べたいもののご希望を聞いたり、盛り付け・食器の配膳・下膳・食器洗い・食器拭き・食器の片付け・テーブル拭きなど、お一人お一人のお力に応じて手伝っていただいている。隣接のクリニックで食事を作ってもらっているが、おやつを作ったり、一品おひたしを作ることもある。時々、近くのレストランなどに外食したり、“さやえんどう”など菜園で採れたものや旬のものなどを利用し調理する時もある。職員も同じテーブルと一緒に食事をしており、楽しい食事となるよう毎日心がけている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に3回、午前中、入浴日を決めているが、状況によって、シャワー浴などでも対応している。羞恥心への配慮も心がけ、基本的には一人ずつの入浴にしているが、仲の良いご利用者同士で入浴することもある。体調に配慮しながらも、湯温の好みに応じたり、シャンプーの好みにも個別に対応している。湯のゴミの除去には細心の注意をしているとともに、季節感を出すために、菖蒲湯やゆず湯・よもぎ湯(農園の横で作ったよもぎ)なども行い、楽しい入浴になるよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご利用者の方々に、長年培ってきたお力を発揮していただけるよう、食後の食器拭きや洗濯物たたみ・農作業・ホーム内清掃などをしていたく方もおられ、日常生活の中で役割を持っていただくようにしている。1階のホールで、自主運動を積極的にされる方や、漢字検定・茶道・将棋(全国大会出場)・読書・編み物を楽しみにされておられる方も多い。お一人お一人のお力を発揮して活躍の場をより多く作れるよう配慮している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	地元の方が多く、入居する前から良く行かれていた場所も把握している。山やスーパー・眼科・外食など、お好みの場所に個別に外出できるよう職員は対応している。コーヒーがお好きな方がおられ、近くのコーヒー屋さんにも、一緒にコーヒーを飲みに行くこともある。なるべく一緒に散歩に出るようにしており、菜園での農作業も楽しみにしている方もおられ、お一人お一人に応じた外出ができるよう配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	朝6時に起きて歩行訓練をされる方もおられるので、玄関は、朝6時頃開けて、夜9時頃まで開放しており、鍵はかけていない。ご利用者やご家族の方には自由に出入りしていただいている。職員同士で声をかけ合い、ご利用者お一人お一人の行動の確認、見守りを行っている。隣接のクリニック職員や近所の方にも、何かあれば協力いただけるようになってきている。ご利用者の方が、役割として、夜はカーテンを閉め、戸締りもしてくださっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月1回、火災訓練を行っている。職員(隣接クリニックの一部職員も参加)・ご利用者の方が参加し、火災時と合わせて、夜間を設定しての訓練も行っている。ご利用者から「訓練の時に煙があがっていない」と言う意見をいただくなど、ご利用者の方も積極的に参加されている。地域の協力体制は運営推進会議の場でも願っている。災害時に備えて、簡易トイレ・寒さ対策の備品は準備している。食料・飲料水は、隣接のクリニックより支援を受けることができる。	○	今後は、消防署の方も一緒に避難訓練を実施していきたいと考えている。実際の避難方法のアドバイスをいただけることもあり、消防署の方との合同訓練が実現できることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者個々の栄養面のアドバイスは院長からいただいている。食事は、隣接クリニックの厨房から搬入されており、エネルギー・蛋白・脂質・炭水化物・塩分なども献立表に明示されており、栄養バランス等の管理もできている。ご利用者の好みや要望も把握しているが、苦手な物も食べられるようにさりげなく声かけをしている。好みに応じた個別の調理も行っている。お一人お一人の食事量・水分量も把握し、食事量は記録に残している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1階から2階にあがる階段には、観葉植物や絵画を配置し、階段をあがった2階の踊り場には、窓から外を眺められるようテーブルセットを置いている。2階のホーム入り口は、全面ガラス張りですっきりと、柔らかい優しい色彩になるよう、木を豊富に使っており、飾り物の配置も大人の生活空間になるよう配慮されている。広いリビングには、ソファや食卓・テレビ・腰高の木製の整理棚が設えており、思い思いの場所で自由にくつろいでいただいている。季節の花も飾り、季節感も取り入れている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室も明るく、備え付けのクローゼットが広い。「ご利用の手続き」の中には、「・・・ご本人の大切にされているもの、趣味などがあればお持ちください・・・」と明記しており、入居時に説明をしている。ご本人、ご家族とも相談しながら、趣味の物、馴染みの物を持ってきていただいている。ご本人の目標とすることを、職員が個々に紙に記入し、いつも見ることができるよう、居室の壁に貼っている。		